

平成30年度 第1回 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会 会議録 (概要)

日時 平成30年6月29日(金) 午後2時00分から午後3時50分

場所 鎌ヶ谷市役所5階 502会議室

出席者 黒岩史郎会長、高橋貴子副会長、江間由紀夫委員、山根清孝委員、
金田一正史委員、鳥居律子委員、松村桂子委員、木藤直美委員、
村田セツ子委員、櫻澤美智子委員、飯高優子委員、西出信夫委員、
鈴木君江委員、菊地謙委員、早坂ひとみ委員、
本間恵委員(鎌ヶ谷市健康増進課主幹)

欠席者 渡辺浩隆委員、井手勝則委員、山本幸子委員、
高橋徹委員(鎌ヶ谷市社会福祉課長)

事務局 (障がい福祉課) 斉藤実障がい福祉課長、遠藤善治課長補佐、星直子庶務係長、
中村浩主任主事、鈴木俊雄、
(もくせい園) 米良康史施設長、(なしねっと) 狩野秀二課長
(鎌ヶ谷市基幹相談支援センターえがお) 渡辺恵美子所長、馬場武士

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・ 式次第
- ・ 資料

平成29年度障害福祉サービス等の計画と実績値

平成29年度地域生活支援事業の計画と実績値

平成29年度相談支援事業の実績(サポートネット鎌ヶ谷・なしねっと・基幹相談支援センター)

専門部会の改編案

障がい者差別解消支援地域協議会の資料

- ・ 「地域連携部会」設置に関わる地域課題の抽出、整理のためのワークショップ実施報告
- ・ 平成30年度鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会委員名簿
- ・ 第29回千葉県重症心身障害連絡協議会年度大会リーフレット

<本日の傍聴人及び会議の出席状況について>

事務局より、出席者数（16名）が会議開催の定足数である「委員の過半数の出席」を満たしていること及び傍聴者が0名であることを報告した。

<委嘱状交付及び自己紹介>

人事異動等により委員の変更があったため下記3名の新任委員を紹介し、委嘱状を交付した。

- ・金田一 正史（習志野健康福祉センター）
- ・鳥居 律子（千葉県立つくし特別支援学校）
- ・菊地 謙（中核地域生活支援センター習志野圏域・まるっと）

続いて委員全員の自己紹介を行った。

会長挨拶

お忙しい中お集まりいただいたことに感謝申し上げます。現在、専門部会の改編を検討している。本日の議題の中にも改編についての内容があるので協力をお願いしたい。積極的なご意見をいただきたい。

第4期鎌ヶ谷市障がい福祉計画の実績について

事務局より「平成29年度障害福祉サービス等の計画と実績値」（以下「福祉サービス実績」という。）、「平成29年度地域生活支援事業の計画と実績値」について説明した。

会長

ただ今の実績の説明について質疑があればお願いしたい。

会長

18歳以上でセルフプランの人は残っているか。

事務局

大きい数字ではないが残っている。更新時には、計画相談支援事業所の計画にするようにお願いしているので、徐々に減っている。

副会長

就労経験の無い人が就労継続支援B型（以下「B型」という。）を希望している場合で、就労アセスメントの結果、B型ではなく就労移行支援が適切と考えられるケースはないか。そういう場合でもB型とするのか。

事務局

B型希望で、就労移行支援の方が適切だと判断されるケースもあると思う。対応はケースごとに異なると思う。この場で回答できる具体的なケースの情報を持ち合わせていない。

委員

資料「福祉サービス実績」中「就労継続支援（B型）」の「利用率」の「(実人)」が112.8パーセントで100パーセントを超えている。これは、鎌ヶ谷市内の事業者が不足しているということか。

副会長

これは、計画値に対する実績の利用率であり、市内のB型施設の定員に対するものではない。市内のB型施設の中には、定員に達していない施設もある。

委員

資料「福祉サービス実績」中「計画相談支援」の「利用率」が82.9パーセントだが、福祉サービスから漏れている人への対応はどうしているのか。

会長

鎌ヶ谷市基幹相談支援センター（以下「基幹相談支援センター」という。）がカバーするという形になっている。

委員

地域には、まだ情報が無くて困っている人がいる。相談する場所から案内するというのが実態である。

会長

相談窓口の周知が足りていないということかもしれない。

平成29年度相談支援事業の実績について

(1) 障害者相談支援事業 サポートネット鎌ヶ谷

平成29年度の実績について内容を説明した。

資料の実績値は、計画相談と一般相談を合算した実績である。基幹相談支援センターの開設に伴い平成29年12月頃から一般相談が減ってきている。

(2) 障害者相談支援事業 なしねっと

平成29年度の実績について内容を説明した。

平成28年度から相談支援事業を常勤3名体制になり相談件数が増えている。

会長

ただ今の実績の説明について質疑があればお願いしたい。

委員

「支援内容」を見るとほとんどが「福祉サービスの利用等に関する支援」となっているが、どのようなものか。

なしねっと担当者

「福祉サービスの利用等に関する支援」でカウントしているものの多くは、計画相談で入っているものである。サービスの利用のために、関係機関（市役所障がい福祉課、ヘルパー事業所、居宅サービス事業所、こども発達センター）への連絡などのやり取りが多くなるので、必然的にカウント数が増え、実績全体の中での割合が大きくなっている。

副会長

なしねっとは、主に知的障がい者からの相談を受けているということだが、障がい重複している人はいないのか。

なしねっと担当者

重複しているケースもあるが、集計では主な障がいとして、「知的障がい者」としてカウントしている。

委員

「相談支援を利用している障害者等の人数」を見ると、障がい者の項目に「その他」というものがある。これはどのようなものをカウントしているのか。

サポートネット鎌ヶ谷担当者

サポートネットでは、未受診で障がいの疑いのある方や、家族、近所の人などからの相談をカウントしている。

なしねっと担当者

なしねっとでも、同様に未受診で障がいのある疑いの方をカウントしている。

(3) 基幹相談支援センター

平成29年度鎌ヶ谷市基幹相談支援センター活動実績について内容を説明した。

障がい重複している場合、「1 相談人数」では障がいごとにカウントしているが、「2 支援方法」、「3 支援内容」については主な障がい種別でカウントしている。

相談経路は、当初は事業所等からの相談が多かったが、広報や案内チラシの自治会全戸配布などの周知活動により、徐々に個人からの相談も増えてきている。「3 支援内容」では「福祉サービスの利用等」の相談が最も多くなっている。具体的には「どこに相談したらいいのかはつきり分からない」、「すでに繋がっている計画相談支援事業所と上手くいかない」などの内容である。

会長

ただ今の実績説明について質疑があればお願いしたい。

委員

相談人数が増え続けているが、「なかまネット」(※)からの継続者も多いのか。

※ 基幹相談支援センターの委託を受けている法人が、平成29年度まで千葉県から委託されていた「中核地域生活支援センター事業」の習志野圏域での事業名称。「中核地域生活支援センター事業」とは、対象者種別にとらわれず、福祉全般にわたる相談に24時間・365日体制で応じるとともに、相談者ニーズを把握し、適切な支援機関へつなぐため、連絡・調整等の必要な活動を行っている千葉県の独自制度。

基幹相談支援センター担当者

基幹相談支援センターが開所した10月から、すべて新規でカウントしている。「なかまネット」から継続して支援しているのは鎌ヶ谷市の方のみで10名くらいである。

会長

対応困難な相談事例の中で鎌ヶ谷市の傾向的なものはあるか。

基幹相談支援センター担当者

鎌ヶ谷市は身体障がい者の支援体制が整っていない。平成30年度に入り病院から、身体障がいの方が退院した後の支援についての相談が何件か入っている。車椅子で通所できる場所もなく困っている。また、引きこもりの相談で、子どもの頃から障がいの疑いがあったものの家族が抱えてしまっていたケースも多い。

会長

計画相談と同じ傾向にあると思う。引きこもりは若者が多いのか。

基幹相談支援センター担当者

若者もいるが、50代くらいで両親が高齢になり、両親亡きあとを考えて相談に至ったというケースも多い。

専門部会の改編について

事務局

専門部会改編についてのこれまでの経緯及び修正後の改編案、「政策課題検討チーム」(ワークショップなどを通じた地域課題・地域ニーズからのテーマ設定とは、別に国などの進める政策に沿った検討を行うチーム)として設定を検討している2つの政策課題、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」、「地域における医療的ケア児の支援体制の整備」について説明した。

会長

専門部会の改編について、質疑があればお願いしたい。

委員

当初の改編案では地域連携部会が、地域課題の抽出を行っているが、修正後はこれにあたるどころが無いように見えるがどうか。

事務局

地域連携部会が引き続き課題の抽出を行うことになる。地域連携部会の役割が修正前より増え、①個別課題・ニーズを収集し、②地域課題の抽出・整理を行い、③検討テーマを設定しチームごとに地域課題の検討を行い、④全体会議に上げるという役割を担う。

委員

各障害福祉サービス事業所が意見などを出す場はどこになるのか。各事業所の思いを拾い上げる場が無いと地域連携部会まで課題が上がってこないのではないかと心配している。

事務局

地域連携部会の役割にある個別課題・ニーズの収集の方法として、ワークショップなどの手法を取り入れ、広く意見を吸い上げたいと考えている。

委員

地域連携部会に各障害福祉サービス事業所などが入っているということか。

事務局

入っているということではなく、地域連携部会が個別課題やニーズを収集する対象に、各障害福祉事業所なども含まれていると理解してもらいたい。改編案では、これまで以上に広く意見をうかがえる形を目指している。

会長

ほかに質疑がなければ決をとりたい。部会改編について改編案の内容で承認いただくとともに、チーム編成のためのテーマ設定及び、チーム参加者の選出方法などの詳細については、正副会長及び事務局に一任いただくということで、承認いただける方は挙手をお願いしたい。

全会一致で承認

障害者差別解消支援地域協議会について

事務局

障害者差別解消支援地域協議会の設置について説明した。

鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「自立支援協議会」という。）の所掌事務に「障害者差別解消支援地域協議会」としての事務事項を追加し、自立支援協議会が「障害者差別解消支援地域協議会」の機能を兼ねる形としたい。自立支援協議会に追加される具体的な内容は、相談事例等に係る情報共有と、差別解消の取組みの啓発の方向性について意見をいただくことの2点である。

会長

数年前から差別に関する相談機能を権利擁護部会で担ってはどうかという話があったが、相談機能はどうなるのか。

事務局

当初、差別に関する相談機能も含めて「障害者差別解消支援地域協議会」の機能を権利擁護部会で担ってはどうかという案もあった。しかし、その後の他市の設置状況などを参考に検討した

ところ、差別に関する相談は障がい福祉課で担い、「障害者差別解消支援地域協議会」の機能は自立支援協議会に担っていただくほうが適当であると考えた。

会長

他に質疑がなければ、決をとりたい。承認いただける方は挙手をお願いしたい。

全会一致で承認

その他

事務局より第29回千葉県重症心身障害連絡協議会 年度大会のリーフレットについて説明した。

会長

以上で協議会を終了する。

閉会

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成30年9月3日

氏名 黒岩 史郎

氏名 飯高 優子